

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 30 日作成)

委員会名	農村計画システム小委員会	主 査 名：中島熙八郎
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：伊藤庸一
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	都市及び同縁辺部の土地利用の空洞化・粗放化、過疎中山間地域における地域崩壊に対応するため、農村・都市を連続的に対象とする新たな計画システムの可能性の研究を進める。	
委員構成 (委員名(所属))	中島熙八郎(熊本県立大学) 地井昭夫(広島国際大学) 石丸紀興(同左) 三橋伸夫(宇都宮大学) 菊池成朋(九州大学) 山崎寿一(神戸大学) 神吉希世子(和歌山大学) 木下勇(千葉大学) 齋藤雪彦(東京農工大学) 楠本侑司(農村開発企画委員会) 内平隆之(神戸大学) 宮里明日香(熊本県立大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2004 年度予算	165,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年 8 月 30 日：小委員会 札幌市(8人) 2005 年 3 月 24 日：小委員会・現地研究会 千葉ニュータウン(4人)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1.8/30、札幌での小委員会での検討をうけ、2005 年にむけ「ヨーロッパにおける地域再生のための計画手法に関する研究」、「ヨーロッパにおける農都強制システムの計画手法に関する研究」、「ダウンサイジング期における農都共生型地域再生計画手法に関する研究」の3本の科研費申請をおこなった。</p> <p>2.1/19、兵庫県尼崎市近郊農村における都市・農村住民協働による集落・農地保全活動を中心に、とし縁辺部の計画制度の検討と課題に関する、現地シンポジウムを企画したが、パネリスト、委員会委員の日程調整不調により実施できず。</p> <p>3.05/3/24、千葉ニュータウン及び周辺地域を対象に住宅地の空洞化、縁辺のうちの粗放的土地利用実態の現地調査を実施し、現地にて研究会を開催。同時に05年度に向けた小委員会活動等を議題とする小委員会を開催した。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>科研費申請に関しては、前年度応募が不採択となったため、再度、研究内容を精査して申請することが出来た。しかし、04 年度の主要活動として計画した1月の「農都共生」に関する現地シンポジウムが実現できず、その点では達成度は大きく後退した。最終の現地研究会と小委員会の開催については要約実現に漕ぎ着け「毎年度の現地研究交流実現」の目標は達成できた。ただ、それらの成果の社会的還元については、具体化が遅れており、05 年度には実現を期したい。</p>
その他評価すべき事項	なし